

新山協ニュース

▲ 発行者 平田 大 六 ▲ 発行所 新潟県山岳協会
〒951 新潟市下旭町109 鈴木 敏 雄 方 TEL 025-222-9548

年頭の挨拶

副会長 今 成 幸 夫

新年明けましておめでとう
ございます。
今年も元気でご活躍のこと
お喜び申し上げます。

昨年、中高山登山者の遭
難事故が多発し、新聞紙上を
にぎわしていました。
新しい年が遭難事故のない、
明るい年になってほしいと、
すべての人達が願っていると
ころであります。

中高年登山者には三つのタ
初心者型、中高年になって
の衰えを認識していないこと
と、自然の変化に対して若い
時の経験でしか対応できない。

中高年登山者が体力の衰え
た人達ばかりではありません
が、同じ年輩でも普段の労働
条件でそれは千差万別で、力
仕事や肉体労働に従事してい
る人は、当然のことながら筋
力や心臓や肺の持久力は優れ
ています。週に何回か筋力ト
レーニングやプールで泳いで
帰るといようなことをして
いる人は、若い人とそれほど
違わない体力を維持している
ものです。ともかく中高年で
登山を志す人は、日常生活の
中でのトレーニングが必要だ
と云うことになりました。

中高年登山者には三つのタ
初心者型、中高年になって

初心者型、中高年になって

謹 賀 新 年

今年もよろしくお願ひ申し上げます

平成9年元旦

新潟県山岳協会

会 長	鈴木 敏 雄	雄 信 夫 六 同
副会長	藤 井 成 幸 大 一	
理 事 長	平 田 員 一	
ほ か	役 員	

から山歩きを始めた人で、まっ
たく山に縁のない人生を送っ
て来た人達がふと登山を始め
たと云う人達が圧倒的に多い。
この中で復活型と初心者型
に注意者が多い。まずは体
力と技術力をしっかり身につ
けるべきです。

中高年登山者が体力の衰え
た人達ばかりではありません
が、同じ年輩でも普段の労働
条件でそれは千差万別で、力
仕事や肉体労働に従事してい
る人は、当然のことながら筋
力や心臓や肺の持久力は優れ
ています。週に何回か筋力ト
レーニングやプールで泳いで
帰るといようなことをして
いる人は、若い人とそれほど
違わない体力を維持している
ものです。ともかく中高年で
登山を志す人は、日常生活の
中でのトレーニングが必要だ
と云うことになりました。

気力の優れたものにとつて
は、自分はまだまだ若いとい
う思い込みがあるが、実際には
気力と体力のバランスは大
きくずれ、反射神経は失われ、
筋力は低下して瞬発的な
動作ができない。持久力や筋
力持久力の低下で疲労が早く
訪れ、何よりも決定的なこと
は疲労の回復が遅れていつま
でも体に残っていくことです。
人々が生涯にわたり心身共に
健康で活力ある生活を送る
上で、スポーツの果たす役割
はますます大きくなっていま
す。地域の人々が日常的に身
近に利用できるスポーツ施設
の整備拡充が図られています。
これらの施設及びスポーツ指
導員を有効に活用して基礎体
力の向上に努めていただきた
いと思います。

登山は基本的には体力や技
術のほかに経験が必要なスポー
ツでもあります。インスタン
トな講習で技術力が身につい
たと錯覚してはならない。登
山の指導でもっとも効果的な
ことは、直接登山活動の場
であり十分な経験を積んだ、ベ
テランのリーダーのもとで技
術力を身につけることが望ま
しい。

中高年登山者が登山という
健康的な生涯スポーツを通じ
て心身ともに、常にはつらつ
とした若さを保ち年齢などは
問題にしない中高年者であり

続けるとすれば素晴らしいこととであり、日常生活を通して登山の楽しさや自然の美しさを子供達に語り、また次の新しい若い世代の登山者が多くなることを大いに期待できるのではないだろうか。

初心者の多い中高年登山者が自然の恩恵を受けながら登山を無事に続けるためには、

杵差岳避難小屋での荷上げ品盗難に思う

映彩山岳会 井出秀雄

当会が平成7年10月に荷揚げし、翌年2月に使用する予定だった飯豊連峰杵差岳避難小屋の食料及び燃料がそっくり盗難にあった。これらの荷揚げ品は、一斗缶に詰め、蓋にガムテープを張り、缶の表には当山岳会名、2月の主線縦走に用いること、連絡先等を書き込み、さらに紐で缶全体を縛って小屋の梁に乗せておいたものである。

盗難は、2月の縦走時に小屋にたどり着いてみて初めてわかった。この時は連日激しい暴風雨が続く中、幸いにも

指導力のある人々に積極的に協力していただくことが大切である。

年頭に当たり抱負の一端を述べて、皆様のご理解とご協力を心より期待します。

皆様の御多幸をお祈りして年頭のごあいさつとさせていただきます。

唯一好天に恵まれた日であったため、結果的にはその後の

山行の食糧計画及び燃料計画に決定的な支障を生じなかった。しかし、例年になく長期

にわたる強い寒波の襲来のさなか、その後の頼母木小屋等

での数日間にわたる停滞を余儀なくされたことを考えると、

天候の巡り合わせ次第では、食糧及び燃料も途絶えた中で

隊が孤立し窮地に立たされた可能性は極めて高い。

たことが報道されていた。このようなことは新潟県の山では今までまったく聞かれなかったが、それが相次いで起こったことになる。

越後の山岳をはじめとする豪雪地域では、寒波が襲来すれば数日間の停滞もありうることから、当会では、厳冬期における数日間にわたる山行では必ず荷揚げをし、安全を

図ることにしている。気象条件が特に厳しい飯豊連峰では、荷揚げ品の持つ意味は、生命

に関わる非常に重要なことであることは言うまでもない。

誰がどのような状況のもとで行ったことか、我々は知る由もないが、今回の盗難は、

我々が缶に明記したことを無視して行われており、明かに山行に支障がおきることを承知の上で行われたと考える

を得ない。今後、このような事が更に起きるのであれば、

本番の山行にまで荷揚げ品が無事保存されている事を当然の事として行動してきた我々

越後の岳人の厳冬期登山の基

昨今の登山ブームについては、安全確保のための技術や知識が不足している登山者の増加が指摘されているが、このような他人の生命を危険に陥れかねない行為がしばしば起きるほどマナーまで地に落ちてしまったとは思いたくない。当会では、この事実を

わがクラブ ②

柏崎常盤高校登山部の紹介

顧問 村山敬三

身の回りには便利な品物が目移りするほどあふれ、何とは言われないが楽しみを身近に求めようとすればさまざまに我々の生活の「余暇」を埋めてくれるものは多い。

しかし、時に人工から離れ、土を一步一歩踏みしめ、木々の間を縫って頂上目指して汗を流す時間は、何と言った

よいのだろう、日常の慌ただしさ、同じことの繰り返し、どこことなく心の満たされぬ空白感に、新鮮な空気を吹き込み、心の落ち着きを与えてくれるもののように感じられる。

と、私などはたまの山行を

きただけ多くの方々知っていただいて注意喚起しながら、当面、自衛措置についても考えていきたい。更に、再発防止のための様々な働きかけを通じて、再び安心して荷揚げをしておける山に戻るよう努力していきたい。

ころ山が好きになれなかった
のではないかと私などは思っ
ている。

これまでの部としての年間
の活動は、春の総体一次、上
越地区大会、県総体、秋の県
大会と型通り高体連主催の大
会に参加し、部単独としては、

夏の3泊4日程度の合宿、さ
らに春、秋に一度ほど適当な
山行を行っていた。普段の活
動の内容は時期によって異なる
が、新入部員に対しての
食事の作り方、テントの立て
方、装備の扱い方などの基礎
的な訓練から始まり、5キロ
程度のランニングなど体力作
りの面はかなり行っている。

冬山の遭難事故防止について

長野県山岳遭難防止対策協会

1 適切な登山計画と無謀登
山の自粛について
冬山の厳しい自然条件を
踏まえ、パーティーの技術、
体力、経験等を考慮して無
理のない計画により、無謀
な登山を慎むよう次により
指導してください。

平成7年4月には、地元八
石山の避難小屋建設のための
荷揚げに協力し、北条地区の
人たち、北条中学の生徒と共
に資材を担いだ。わが部は登
山部ということで期待され、
2 往復の荷揚げを行って大変
感謝された。

部活動として全体的には活
発な活動とは言えず、特に日
常の練習として欠けているの
は、天気図や知識的なことの
学習の面であると思われる。
現在の部員は女子1名であ
る。何はともあれ、新年度の
新入部員加入をぜひとも期
待している今日このごろであ
る。

(1)登山計画は責任の持てる
リーダーを中心に、参加
者全員で検討を行うなど、
計画の周知を図るほか、
予備日、停滞日を考慮し
た余裕のある日程とする
こと。
(2)冬山では、装備品の欠陥

は直ちに遭難に結びつく
ことから、アイゼン、ピッ
ケル、コンロ等の装備品
について事前点検を行う
とともに、使用方法等を
熟知しておくこと。
(3)単独登山は行わないこと。
(4)万一遭難が発生した場合
には、所属山岳会等で自
力救助できる体制を整え
て登山すること。

2 危険地区の指定
冬山遭難指定危険地区
【槍・穂高連峰】前穂高岳、
北尾根、吊尾根、西
穂高岳、奥穂高岳、北鎌
尾根
【後立山連峰】不帰ノ嶮、
五竜岳、鹿島槍ヶ岳
【八ヶ岳連峰】横岳(大同
心、小同心) 一帯
【中央アルプス】宝剣岳及
び中岳西側一帯
【南アルプス】鋸岳、赤石
岳、塩見岳一帯
【戸隠連峰】西岳一帯、蟻
の塔渡一帯

3 山岳情報について
12月中旬に当県山岳の
「冬山情報」を作成し、配
布する予定ですので、登山

計画立案時の指導等に活用
願います。なお、県下全域
の山岳情報については長野
県警察本部地域課 ☎02
6(235) 3611(直
通)において提供及び相談
に応じています(昼間のみ)。
入山時には直前の山岳状況
を確認するよう指導するほ
か、次の事項について指導
してください。

(1)登山シーズン中は登山口
のJR駅、登山口等に各
地区の山岳遭難防止対策
協会が登山相談所を開設
しますので、入山時は必
ず立寄り登山道や積雪な
どの山岳状況を確認して
から入山すること。
(2)下山した場合は、入山時
の警察署、登山相談所等
に登山コースの積雪状況
等を連絡し、より正確な
補導活動が出来るよう協
力すること。

4 山岳保険への加入につい
て
遭難事故の捜索、救助活
動には、多くの人員と多額
の費用がかかりますが、こ
の費用は、遭難者の家族等

が負担する事になりますの
で、山岳保険に加入してか
ら登山するよう指導して
ください。
5 登山計画書(登山者届)
の提出の徹底について
登山計画書(登山者届)
は入山時に、入山地を所轄
する警察署に提出するほか、
各自が所属する山岳会、学
校、家族にも提出のうえ入
山するよう指導してくだ
さい。なお、所轄警察署が不
明な場合は長野県警察本部
地域課(☎380) 長野市
南長野 長野県庁内 ☎0
26(233) 0110)
に送付するよう指導して
ください。

また、登山計画書を送付
したパーティーも入山時に
必ず登山相談所(駅又は登
山口付近に開設。)に立ち
寄り、山岳情報を聴取して
入山するよう指導して
ください。

6 通信連絡の確保について
冬山は殆どの小屋が閉鎖
されますので、通信確保の
手段としてトランシーバー
やトランジスタラジオ等

を携行し、万一の場合に備えるほか、他のパーティーの遭難に対しても可能な範囲で協力するよう指導してください。

なお、携帯電話は不感地带が多いことから、トランシーバーと併用して活用するよう指導してください。

南極だより 第10号

越冬隊員

片桐 一夫

(1996年11月27日(水))

NHC会員の皆様、お元気でしょうか？

ドーム基地はたいへん暖かくなりました。南極はもう夏です。

今日はほとんど風もなく、気温もマイナス30℃台半ばで太陽の暖かさも顔を向けると感じてしまいます。短パン、Tシャツにサンダルでも幾らか寒いだけで、「違和感」を感じなくなりました。

基地滞在が残り1カ月余りとなり、いよいよ帰還のための慌ただしさを感じている今日この頃です。38次隊を乗せ

た「しらせ」も明日、フリーマントル入港のほずで日本帰国が迫っていることを思わせます。

しかしながら、我々の目標である氷床掘削はきわめて微妙な段階を迎えており、全く予断のならない状態です。果たして目標達成となるか、目標断念となるか明日にもギブアップするかも知れません。

いろいろな問題が発生しており、掘削速度も全盛期の30%以下でしょう。それでも進行すれば良いわけで、もはや神頼みの段階でしょうか！

今日の掘削深度は2439.72mを記録しました。残り、60・28mをクリアできるかどうか賭でもやるというかも知れません。12月14日のNHC忘年会にでも発表しますか！

12月の日程がまだ決定していませんので時間を確定できませんが、南極大陸ドーム基地より「みやじま」さんへ電話をしようと思っています。日本時間で午後7時頃以後だと思って下さい。1年ぶりに皆さんの声を聞きたく

何人かの方々が電話に出られることを楽しみにしています。

(1996年12月8日(日))

ドームふじ観測拠点では、昨日正午過ぎに我々37次ドーム越冬隊の目標であった

南極大氷床深層掘削で 2500m深を達成 致しました。

新潟県山岳協会の皆様のご

声援をいただき、艱難辛苦、極限の世界での掘削作業でしたが、なんとか目標を達成する事が出来たいへん幸運です。作業に携わっている我々

一同もさることながら、掘削システムが満身傷だらけの状態にあり、現在も明日をも知れない首の皮一枚つながっている条件の中でよくここまでこぎ着けたものと思っております。

我々37次越冬隊は3月から1日16時間のペースで日曜日にも返上し掘削を進めてきました。ケーブルの断線やら、掘削孔にドリルの一部が置き去りになったことなどトラブルの枚挙に暇がありません。

しかしながら、この2500mの氷のサンブルは、過去20万年を越える地球環境や気候の変動を明らかにする貴重な資料となり、各地の大学や研究機関でさまざまな分析が行われます。

9月には、アメリカ隊がバード基地で掘削した2165mの深度をこえてロシアのボストーク基地の掘削深度である3300m(推定)に次ぐ世界第2位の深度を記録しました。

我々の掘削作業は、現在、南極観測船「しらせ」で南極に向かっている第38次隊によって引き継がれます。

基盤岩まで残り600m程ですが彼らの成功を願ってやみません。

さて、週末は恒例のNHC忘年会ですが、ここから飛んで行きたい思いがします。目標の2500mを達成したところと掘削システムの都合で明日からはコア掘削はありません。首の皮一枚のシステムを壊す訳には行かないからです。

しかし、液封液の不足により、掘削孔が収縮しますのでリーミングという作業を1月6日

まで継続します。私のドーム基地出発は1月7日と決定しましたので、基地滞在は残り1カ月となりました。ではまた！

訃報

小島六郎氏 日本山岳協会顧問。12月13日老衰のため小出病院で死去、96歳。自宅は北魚沼郡小出町東町1。大相撲の双葉山全盛時代に担当記者として活躍、東京運動記者クラブ友の最年長者だった。大学時代滝谷の初登攀の記録をもつ。

登山用品専門店

— 信頼できるパートナー —

大新スポーツ

新潟市東堀6 ☎(025)222-3736